



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

第14回

「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介



子育て支援活動の表彰

より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭することを目的としています。



女性研究者への支援

育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。



「未来を強くする子育てプロジェクト」では、「子育て支援活動の表彰」と「女性研究者への支援」の2つの公募事業を柱として、すこやかな子育てと夢のある未来づくりを応援しています。

目次

| | |
|------------------------|----|
| 「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介 | 2 |
| ごあいさつ | 3 |
| 講評 | 4 |
| 子育て支援活動の表彰 | 6 |
| 女性研究者への支援 | 15 |



橋本 雅博

住友生命保険相互会社
取締役 代表執行役社長

住友生命では、『社会に「なくてはならない」保険会社を目指し、事業活動を通じてSDGs達成に向けた取組みを進めることで、社会に貢献する』という方針のもと、「健康増進」「子育て支援」「地球環境の保護」を重点分野として、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

そのひとつである「子育て支援」事業の大きな柱が、「未来を強くする子育てプロジェクト」です。このプロジェクトは、住友生命の創業100周年記念事業として、2007年より開始し、今回で14回目を迎えました。

子育て支援に取り組まれている皆さまは、時代とともに変化する各地域や家庭における課題に対し、より良い子育て環境づくりを目指して懸命に取り組むを続けておられます。また、女性研究者の皆さまは、

子育てを行いながら、多様なテーマの研究に対して熱意を持って日々取り組まれておられます。

今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、活動が制限される大変厳しい状況ではありましたが、「新しい生活様式」に沿った支援活動・研究を行っている方もおられ、新たな可能性を感じられた年になりました。

その姿は、これからの持続可能な未来を創っていく子どもたちに夢と希望を与えてくれています。受賞者の皆さまが取り組まれている活動や事例がロールモデルとなり、社会全体で子どもを見守り育てていく環境を築いていけるよう、そして未来を託す子どもたちがのびのびと育ていけるよう、そのための支援の輪が広がっていくことを願っています。

住友生命は、これからも健康で心豊かな社会づくりに向けて、さまざまな活動に取り組んでまいります。

選考結果

第14回「未来を強くする子育てプロジェクト」では、2020年7月から9月までの間、「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の2部門の募集をいたしました。「子育て支援活動の表彰」には181組、「女性研究者への支援」には123名のご応募をいただきました。選考委員による審査を経て各部門の受賞者が決定しました。

子育て支援活動の表彰 応募数181組

- 文部科学大臣賞／スミセイ未来大賞の1組に授与
- 厚生労働大臣賞／スミセイ未来大賞の1組に授与
- スミセイ未来大賞／2組
- スミセイ未来賞／10組

表彰数 /
12
組

女性研究者への支援 応募数123名

- スミセイ女性研究者奨励賞／10名

表彰数 /
10
名

講 評



「未来を強くする子育てプロジェクト」選考委員

東京大学名誉教授
白梅学園大学名誉学長

汐見稔幸

選考委員長



子育て支援活動は、時代とともに少しずつその形を変えていきます。今回の選考でも、時代を反映する課題に対する確に支援を行う団体がいくつも生まれ、地域のなかで欠かせない存在になっている様子がかえりました。これからの子育て支援においては地域づくりの視点が重要であり、支援の輪を広げていくためには、そこに暮らす多様な人同士がつながれる拠り所が必要です。地域のニーズを把握しながら、誰もが気軽に利用できる支援を目指す動きが定着しつつあるところに、わが国の子育て支援活動の成熟が感じられました。

これまで誰もしてこなかったことに挑む——。それが研究者の使命ですが、言葉でいうほど簡単ではありません。しかし、容易には結果が出ないテーマや社会が抱える難題に対し、強い決意を持って挑む女性研究者が大勢います。今回の応募者も非常にスケールが大きく、肝を据えて研究に取り組んでいる方ばかりで、女性研究者が持つ可能性を大いに示してくれました。

恵泉女学園大学
学長

大日向雅美

選考委員



社会情勢が混沌とするなか、家庭や子育てを取り巻く状況はより複雑で過酷になっています。そうした難しい状況下にあって、女性研究者が持つ強さ、しなやかさは着実に増していると感じます。時に実務と研究の間を軽やかに行き来しつつ、もちろん子育てにもしっかり取り組まれている姿に改めて感銘を受けました。周囲の支えや応援があればこそ、このように女性研究者は強くなれるのだと思います。本プロジェクトに対して妊娠時期から期待を寄せてくださる女性研究者も多く、これまで積み重ねてきた14年という時の重みを感じます。今回は新型コロナウイルスの影響で、海外に向く研究の応募が少ない傾向にありましたが、来年以降は女性研究者の方々がその力強さを大いに発揮して、再び世界中に羽ばたかれることを期待しています。



選考委員

奥山 千鶴子

認定NPO法人
びーのびーの理事長



子育て支援の分野においても新型コロナウイルスの影響は色濃く、苦境に負けず活動続ける皆さんの気持ちに応えたいという思いで選考に臨みました。今年の特徴としてまず、コロナ禍に苦しむ家庭に手を差し伸べる活動が多かった点があげられます。居場所づくりや子ども食堂の運営、若者支援などを通じて、地域を力強く支える姿が印象的でした。

また著名な団体や歴史の長い団体から応募いただく一方で、離婚後の支援など新しい課題に対して意欲的に取り組む団体も数多く見られました。東京オリンピック・パラリンピックの延期を受け、パラスポーツを支える団体からの応募もあった点などは今年らしい特徴だと感じました。多様な団体から応募いただけたことは、本プロジェクトの裾野の広がりを示すものであり、今回も大変意義のある選考となりました。

選考委員

米田 佐知子

子どもの未来
サポートオフィス代表



14回目の表彰となる2020年はコロナ禍のなかでの募集・選考となりました。コロナ以前からあった格差や孤立の課題が一層深刻になり各地で支援活動が行われ、ソーシャルディスタンスを求められる社会で、遊び・学び・人のつながりが、子育てや子どもの育ちにどれほど大切かを改めて言語化し、活動をアップデートする必要性に迫られています。応募内容を見ると副賞活用にもリモートやオンライン体制づくり、活動拠点の環境整備や災害時対応を想定したものが多数あり、また長年地道に活動している団体には、時代を超えて継続してきた逞しさを感じました。近年増えてきた居場所づくりや食を介した活動は、その意義をさらに深めた感があります。受賞を通じて、応援の輪がさらに広がることを願っています。

選考委員

高田 幸徳

住友生命保険相互会社
執行役常務



今年度は、新型コロナウイルス感染症が日本社会に大きな衝撃を与えており、多くの人にとって苦しく不安な日々が続いております。そんな状況ではございましたが、今回の応募数に関し、子育て支援活動においては181組、女性研究者においては昨年と同数である123名という沢山のご応募をいただきました。

子育て支援活動の表彰部門では、地域の特色やテーマ、今日的なニーズに対応されるなど、子育て支援の多様な広がりを感じました。コロナ禍を踏まえてオンライン形式での新しい活動を始められた団体もあり、工夫を凝らし実践されている姿に心より敬意を表したいと思います。また、女性研究者の支援部門では、コロナ禍で活動が制限される厳しい環境の中でも研究を続けている様子をうかがうことができ、女性研究者の皆さまの力強さに感動を覚えました。

本プロジェクトでの支援が、団体や女性研究者の皆さまの一層のご活躍につながることを願っております。



受賞団体のご紹介



P8

スミセイ未来大賞
文部科学大臣賞

認定特定非営利活動法人
高知こどもの図書館



P9

スミセイ未来大賞
厚生労働大臣賞

特定非営利活動法人
西成チャイルド・ケア・センター



P10

スミセイ未来賞

特定非営利活動法人
関西ブラジル人コミュニティ CBK



P10

スミセイ未来賞

特定非営利活動法人
キンダーフィルムフェスト・きょうと



P11

スミセイ未来賞

NPO法人 くしろ子ども未来塾



P11

スミセイ未来賞

特定非営利活動法人
珊瑚舎スコーレ



P12



スミセイ未来賞

特定非営利活動法人
チャイルドケアサポートセンター

P12



スミセイ未来賞

特定非営利活動法人 ハーフタイム

P13



スミセイ未来賞

特定非営利活動法人 パラキャン

P13



スミセイ未来賞

一般社団法人 びじっと・
離婚と子ども問題支援センター

P14



スミセイ未来賞

NPO法人 MamaCan

P14



スミセイ未来賞

NPO法人 ゆめ・まち・ねっと



スマイ未来大賞・文部科学大臣賞



全国で初めての、
NPO法人が設立し運営する
子どものための私設図書館
未来を担う子どもたちに
良質な本を提供

高知県高知市 代表者:大原 寿美

活動開始年月 1999年12月

スタッフ数 7名

連絡先 〒780-0850
高知県高知市丸ノ内1-1-10
高知県立公文書館内

受賞の言葉

開館20周年記念事業がコロナ禍により縮小を余儀なくされ、肩を落とす場面の多かった一年でしたが、このたびの受賞の知らせを受けて、これまで当館の運営を支えてくださった方々へうれしいご報告ができ、何よりの励みとなりました。これからも賞に恥じないよう、子どもたちに本を届ける仕事を続けてまいりたいと思います。

認定特定非営利活動法人 高知こどもの図書館

子どもたちに本を届けたい

高知県では、高知市やその周辺への人口の一極集中が進んでおり、中山間地域には、子どものための文化施設も少ないので、文化的な格差が生じ、子どもたちの読書の機会が減っていることが懸念されています。当館は、子どものためのより良い読書環境をつくるという目標のもと、子どもと本の出会いの場を創出してきました。

検討を重ねて良質な本を提供しています

ライフスタイルも多様化している現在、子どもの読書環境も大きく変化をしています。そんな時代にあっても、読書は子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。これまで読み継がれてきた名作や、科学的な知見で正確な情報による本などを丁寧に選書し蔵書として揃え、子どもたちへ手渡しています。

本と人をつなぐ活動に注力

運営資金は協賛会員によるご厚志で賄われており、厳しい面もあります。しかし、ボランティアを募り、地域の理解者とネットワークを広げながら活動を行っています。私たちは図書館業務に加えて、出張図書館や読み聞かせの会、読み聞かせボランティア養成講座など参加型のイベントを多数開催しています。人と本がつながり、さらに人と人がつながっていくことが大切だと考えているからです。



スミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞



子ども食堂を通じて
親子の居場所を作り、
見守りを続ける

大阪府大阪市 代表者:川辺 康子

活動開始年月 2010年4月
2017年12月(NPO法人設立)

スタッフ数 2名 ボランティア20名

連絡先 〒557-0022
大阪府大阪市西成区中開3-3
ひらき住宅1-102

受賞の言葉

地域や家庭の中で子どもが安心して育ち、未来に希望を持てるよう取り組んできました。その活動が評価されこのたびスミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞という栄えある賞をいただき感謝の言葉もありません。これからも子どもや親たちと共に、安心して暮らせる地域づくりに取り組み、子どもの未来をサポートしていきたいと思えます。

特定非営利活動法人 西成チャイルド・ケア・センター

子どもたちだけでなく親も支えています

大阪市西成区は全国有数の貧困層が多いエリアです。劣悪な環境下で生活している子どもたちや、家庭や学校に居場所さえない子どももいます。貧困の根は親にあるため、家族単位で支えなければ貧困の連鎖は断ち切れません。そこで子ども食堂を中心に、居場所を開設し、貧困にあえぐ親子に寄り添い、見守りを続けています。

食事の提供だけでも子どもたちに変化が

子どもたちは参加当初はイライラしていても、お腹と心が満たされると徐々に落ち着きを取り戻していきます。食事を提供し、対話をするだけでも効果があるのです。誰でも利用ができますが親との面談が条件。子どもたちだけではなく、その親も支えていく必要があるケースが多いからです。親たちとスタッフはLINEでつながり、生活相談や急な子どもの預かりの依頼などにも対応しています。

貧困の要因でもある生活態度を修正し、 根本的な解決へ

これまでの居場所事業に加え、さらに滞在型支援も開始しました。これはスタッフがその家族と同居して、根底にある問題を見出し、無計画な生活から規則正しい生活へと導く試みです。生活の改善には最低でも半年はかかりますが、順次支援を拡充していく予定です。社会構造の変化とともに、地域から見放された子どもたちが増えています。明日の社会を創るには、こうした子どもたちを日々見守る必要があると確信しています。



スミセイ未来賞



特定非営利活動法人 関西ブラジル人コミュニティ CBK

当事者目線で、南米をルーツとする

子どもたちと家族を支援

兵庫県神戸市 代表者:松原 マリナ

活動開始年月 1999年8月

スタッフ数 6名 学習支援ボランティア10名

連絡先 〒650-0003 兵庫県神戸市
中央区山本通3-19-8
TEL 078-222-5350

外国をルーツとする子どもたちの多くは、日本語での会話には不自由がなくても学習言語としての日本語理解度が浅く、高校への進学をあきらめてしまうこともあります。また、日本語が十分ではない親たちとの断絶が生まれるケースもあります。こうした子どもたちに対し、母語(ポルトガル語)やブラジルの文化を通して、自分や家族のルーツを見つめ直し、アイデンティティを形成するための支援を行っています。

受賞の言葉

20年間にわたる私たちの教育活動を評価していただき、感謝申し上げます。南米の国々から、多くの人たちが来日して30年になりました。次の世代に移りつつありますが、日本に来てよかった!とってもらえる家族が増えることを目指して、活動を続けます。



特定非営利活動法人 キンダーフィルムフェスト・きょうと

子どもたちが主体となって作る

京都国際子ども映画祭

京都府京都市 代表者:藤原 杏奈

活動開始年月 1994年2月

スタッフ数 40名(子どもスタッフ30名)

連絡先 〒604-0931
京都府京都市中京区榎木町87
TEL 075-212-8612

子どもスタッフが運営を担い、審査員や海外作品の吹き替えなどもこなす、子どもたちによる映画祭を毎年1回開催しています。世界各地の映画祭に出品された作品の中から、子どもが主人公で良質な作品をピックアップして上映しています。子どもたちは審査を通じて意見の交換や表現することを学び、作品鑑賞や海外映画の関係者との交流により異文化にふれ、世界への興味と理解を深めることにつながっています。

受賞の言葉

こんな名誉な賞をいただけて、子どもスタッフたちとともに喜びを分かち合っています。子どもたちが見ている日常の中のキラキラした部分を、これからもどんどん世の中に放っていけるよう、日々少しずつ積み上げていきたいと思っています!



NPO法人 くしろ子ども未来塾

子どもたちのためにプロの講師が集まり、
勉強、スポーツ・文化芸術等の
多彩な講座を提供

北海道釧路市 代表者: 吉田 敦子

活動開始年月 2012年3月

スタッフ数 46名

連絡先 〒085-0832
北海道釧路市富士見3-9-20
TEL 0154-41-3221
090-8709-9323

受賞の言葉

コロナ禍で全国的に経済が疲弊し、子どもたちの学びが奪われ、学びの支援が求められています。私たちの住む地方都市においては、ずっと以前から経済的理由で学びを諦める子どもたちの姿があり、その問題に少しでも力を尽くしたいと活動を始め、今年10周年を迎えます。このたびの受賞は、ボランティアで活動する先生たちへの大きな励みとなります。

釧路管内の子どもたちのために、好きなこと・得意なことを見つけられる環境を作ろうと、活動を開始しました。1か月に一度、市内からプロの講師たちが生涯学習センターに集まり、勉強・スポーツ・文化・芸術等の合計23の講座を提供しています。参加費300円で、時間内であればいくつでも好きなものを自由に受けることができます。いろいろな体験をすることで、子どもたちの人生が豊かになることを願っています。



特定非営利活動法人 珊瑚舎スコーレ

不登校や貧困など、課題を持つ子どもたちに
学びの場を提供

沖縄県南城市 代表者: 星野 人史

活動開始年月 2001年4月

スタッフ数 22名

連絡先 〒901-1414
沖縄県南城市佐敷津波古509-4
Email info@sangosya.com

受賞の言葉

個人の尊重と協同を求め続けるという教育の課題に取り組み、今年で20年になります。地道な活動を認めていただき、今後の大きな励みになります。この4月に9歳から85歳までの生徒たちが行う20周年記念ミュージカルを成功させ、次のステップに進もうと思います。今後は「海と人の環境」分野に力を注いで活動していきます。

さまざまな理由で不登校や貧困問題を抱える子どもたちに、学びの場を提供しています。授業では、沖縄の歴史や文化を教えるほか、生徒の主体性を引き出し、互いを認め合えるような工夫を取り入れています。教室での座学に加え、山中に歴代の卒業生たちが整備してきた「山がんまり」という施設を持ち、自然の中での体験学習も行っています。珊瑚舎スコーレの学びを、授業出席と認める公立学校が増えてきました。



スミセイ未来賞



特定非営利活動法人 チャイルドケアサポートセンター

北九州市小倉北区の
「ママトモ魚町」を拠点として、
市内の子育てを総合的にサポート

福岡県北九州市 代表者: 鶴田 貴豊

活動開始年月 1995年4月

スタッフ数 40名

連絡先 〒802-0006 福岡県北九州市
小倉北区魚町3-3-20 中屋ビル2F
子育てひろば「ママトモ魚町」
TEL 093-967-0708

受賞の言葉

このたびの表彰に深く感謝いたします。子育てに寄り添うことが子どもたちの安心と健やかな成長につながり、ひいては少子高齢化の解消になると信じて活動を続けてきました。今回のこの受賞を機に、より多くの親子に近くで子育てを手助けしてくれる人がいる、一人じゃないということを伝えていきたいと思っています。

北九州市の中でも特に小倉北区では人口が増加しており、転勤族も多く、身近に頼れる友だちや親族がいない親子がたくさんいます。そこで、こうした親子のために、親子で過ごせるフリースペース「ママトモ魚町」の運営のほか、一時預かりや、出張託児などのサポートを展開しています。特に、「ママトモ魚町」のある魚町銀天街には、開設以来親子連れの姿も増えて、街に活気が戻ってきたと周囲から高評価を受けています。



特定非営利活動法人 ハーフタイム

生きづらさを抱えた子どもたちに寄り添い、
社会的自立を支援する活動

東京都葛飾区 代表者: 橋井 啓子

活動開始年月 2010年1月

スタッフ数 118名(職員2名、
ボランティア大学生45名・社会人71名)

連絡先 〒125-0054
東京都葛飾区高砂7-25-19
TEL 090-5763-5444 (橋井啓子)

受賞の言葉

このたび、このような賞をいただけること、大変うれしく思っております。ただ、子どもたちの抱える生きづらさには深刻なものもあり、手放しに喜べるわけでもありません。こうした子どもたちがいることを一人でも多くの方に知っていただき、子どもたちを見守る仲間が各地域で増えることを、切に願っています。

社会問題ともなっている貧困、家庭内暴力、ネグレクトなど。葛飾区でも深刻で、自己肯定感が低く、希死念慮を持つ子どもたちもいます。親への支援も必要で、その場しのぎの対応では改善しないケースもあります。そこで大学生やケースワーカーが集まり、子どもたちの居場所づくり活動を行っています。中長期的な視野に立ち、子どもたちが生きる力を身につけられるよう、一人ひとりに丁寧に寄り添って信頼関係を構築しています。



特定非営利活動法人 パラキャン

パラスポーツを通じて、
子どもたちの健全育成を図る

千葉県柏市 代表者：江藤 秀信

活動開始年月 1997年4月

スタッフ数 8名

連絡先 〒277-0082
千葉県柏市緑ヶ丘8-1-202
TEL 04-7169-6423

私たちが行っているのは、障がい者アスリートを小・中・高校に派遣し、パラスポーツを通じてダイバーシティやバリアフリーの世界を身近に知ってもらう活動です。講師は、自己の体験を語るだけではなく、時には子どもたちに障がいのある部分を触ってもらうことで、恐れや違和感を取り除く試みなども行っています。講師たちが、障がいを抱えながらも、前向きに生きている姿は、子どもたちにも好影響を与えています。

受賞の言葉

当法人は、障がいのある子どもを含めた子育てを地域で行い社会全体を変革することを目標に活動しています。障がいのある子どもたちと一緒に遊びながら、子どものうちから、障がいは社会全体の課題であることを学び、大人もそこから学習する循環を作ります。このような栄えある賞をいただいたことを励みに、さらに精進してまいります。



一般社団法人 びじっと・離婚と子ども問題支援センター

離れて暮らす親子の交流を支援し、
子どもの健全な育成を目指す活動

神奈川県横浜市 代表者：高津 妙理

活動開始年月 2007年8月

スタッフ数 105名(研修中含む)

連絡先 〒231-0015 神奈川県横浜市中区
尾上町6-86-1 関内マークビル5F
行政書士阿部オフィス内
TEL 045-263-6565

親が離婚すると、子どもは「自分は捨てられたのか」、「自分に責任があるのか」と考えがちです。必要なのは両方の親と関わり愛情を受けること。しかし、離婚した父母の間には深刻な葛藤のある場合が多く、面会交流についてはおざなりにされることが多いのが現状です。びじっとでは面会交流の相談から当日の子どもへの付き添いなどの支援をしています。子どもの立場に立って、健全な成長のためのサポートを行っています。

受賞の言葉

この賞をいただいたことにより、私たちの活動が社会に向けて発信されました。離婚家庭における子どもの教育格差は大きな社会問題となっています。面会交流は、別居親の養育費支払い意欲になることから、離婚するかしないかの初期段階で、家族間に介入する面会交流支援が新たな福祉事業として認められる一歩。本当にありがとうございます！



スマセイ未来賞



NPO法人 MamaCan

子どもと子育ての孤立をなくすため
地域と家族をつなげる活動、
母親自身の自己肯定感を上げていく活動

千葉県松戸市 代表者:山田 美和

活動開始年月 2013年4月

スタッフ数 12名

連絡先 〒271-0091
千葉県松戸市本町13-27
TEL 080-7025-1403

受賞の言葉

コロナ感染症の影響で子どもや子育て世帯に大きな負荷がかかった今年度の終わりに素晴らしい賞をいただき、感謝と共に決意を新たにしています。「子育て支援」といっても各家庭の状況はさまざま。救う手段は必ずあるはずと信じて、孤立予防や母親のキャリア支援を推し進めつつ、地域資源と当事者をつなげるために、今後も手を尽くしていきます。

子育て中の女性は、自分のキャリアが止まり、社会から分断されたような気持ちになることが多いです。そこで、子育てもキャリアであるというのが「MamaCan」の発想。ネイル、布小物、フラワーアレンジメント等々、ママたちの持つスキルや子育ての経験を生かして、地域の企業などとタイアップして活躍の場を作っています。ママたちの活力を地域社会に還元することが、地域の活性化につながると思います。



NPO法人 ゆめ・まち・ねっと

生きづらさを抱えた子ども・若者たちと
つながり続ける居場所

静岡県富士市 代表者:渡部 達也

活動開始年月 2004年9月

スタッフ数 10名

連絡先 〒417-0071
静岡県富士市国久保1-7-15
TEL 0545-52-3175
070-6552-3644

受賞の言葉

「心が折れるより骨が折れるほうがましだ」というモットーを掲げ、生きづらさを抱えた子ども・若者とつながり続けようとする活動は、学校的価値観と激しく対立することの連続でした。そんな活動を高く評価していただき、これからの子育て環境づくりに明るい未来を灯してくださいました。感謝の気持ちでいっぱいです。

家庭や学校、社会で生きづらさを抱えている、子どもたちや若者の居場所を作っています。公園で泥だらけになって遊び、焚火やドラム缶風呂も体験できる「冒険遊び場たごっこパーク」。仲間と遊んだりだべったりと自由に過ごせる駄菓子屋風の「おもしろ荘」。週一回は「こども食堂」も開催。保護者を労い励ます「ワンコインゼミ」も好評。だれでもいつでも遊びに来られる場所で、子どもたちに長く寄り添い続けたいと思っています。



スミセイ女性研究者奨励賞



栗谷 しのぶ

東京大学大学院 法学政治学研究所

受賞の言葉

三児のシングルマザーです。仕事をしながら博士課程に在籍しています。単独で3人の育児と仕事と研究を成し遂げることは想像以上に辛く、何度も心が折れそうになりましたが、社会経験で得た知見を論理的に再構築するという目標をあきらめることはできませんでした。受賞を励みに研究を続け、社会貢献していきたいと思っています。

研究テーマ

食品安全リスクの法的制御における 民主的正統性

内容

人の生命・身体や環境を脅かすリスクを制御するために、グローバルレベルで多様なメカニズムが形成されている。本研究は、行政法的視点に立って、そのようなリスクのうち、とりわけ食品安全に影響を与えるリスクを法的に制御するため、欧米諸国をはじめとする各国の法的枠組みを検証するとともに、日本の法規制に係る現状と課題を明らかにし、人の生命・身体や環境に係るリスク管理に係る法規制の発展に資することを目的とする。



一原 雅子

京都大学大学院 地球環境学舎

受賞の言葉

このたびのご選定に心より御礼申し上げますと共に、多様な障壁と向き合いつつ研究に励む女性研究者を支援する御プロジェクトのご催行も心より感謝と敬意を表します。わが子という将来世代を育てながら、女性研究者たちが、研究を通じて社会に貢献することには大きな意義があると信じております。貴重な機会に感謝し、一層精進してまいります。

研究テーマ

気候変動訴訟

- (1) 気候変動関連条約の国内実施をめぐる訴訟
- (2) 日本の気候変動訴訟における障壁、
また原告らが有する訴訟動機および期待

内容

気候変動訴訟とは、気候変動問題に関する法的責任について、国、自治体または民間主体等を相手取り追及する訴訟を指す。本研究は、過去および係属中の同種訴訟を分析し、その障壁、適合性、限界および今後の展望等を追求する。また、公益的な側面の強い気候システムにあえて提訴に踏み切る原告らの問題意識の実証を通じ、日本の気候変動政策が内包する問題点に光をあてる。



スミセイ女性研究者奨励賞



大石 茜

筑波大学大学院 人文社会科学研究所

受賞の言葉

2歳と0歳の子どもを育てながら、博士論文の執筆が思うように進まず焦りが募るなか、奨励賞に選んでいただいたことは、何よりの励みとなりました。どうもありがとうございます。子どもたちとの穏やかな日々を大切にしながら、研究成果を社会へと還元していけるよう努力を重ねたいと思います。

研究テーマ

台湾・朝鮮・満洲における
「良妻賢母」

内容

戦前の台湾・朝鮮・満洲などの外地の幼稚園・保育園の研究を通して、外地では内地(日本)とは異なる子育てが模索され、求められた母親像も異なっていることに気がついた。内地では、新中間層を中心に、主婦として子育てに勤しみ夫をたてる「良妻賢母」が推奨されたが、外地では、母親に内職や副業を奨励し、託児所の設置も試みられていた。「良妻賢母」像を精査することで、当時の子育てや家庭のあり方を明らかにしたい。



坂口 恵莉

大阪大学 人間科学研究科

受賞の言葉

このたびの受賞を大変にありがたく、光栄に存じます。親として子どもを健やかに育むこと、そして、研究者として成果を積み重ねることを通じて、このたび与えていただくご支援に添えていきたい所存です。心より感謝し、お礼申し上げます。

研究テーマ

区域外原発避難にみる抵抗の戦略

内容

2011年の東日本大震災以降、政府指定避難地域外から避難をする原発避難者がある。制度の狭間に置かれ続ける区域外避難者は、「社会的にバルネラブルな状態」(誰しもが持つ「傷つきやすさ・貧弱性」の性質が社会的な文脈の中でより強く生じている状態)にある主体といえる。本研究では、区域外原発避難者が過去10年間、どのような困難を経験し、また「抵抗」の展開をしてきたのか、そして、そこへ介在した支援について明らかにする。



佐々木 加奈子

東北大学 情報科学研究科

受賞の言葉

出産して1年も経たない頃、病気が発覚。そこから通院と育児に追われながら研究から程遠い生活を送っていました。諦めかけていた私にとって、このたびの受賞はまさに一筋の光です。子どもとの時間を大切にしながら、研究に進進する一歩を踏み出す覚悟ができました。ありがとうございます。次につながる成果をあげたいと思います。

研究テーマ

現代社会における「語りづらさ」に関する 芸術社会学的研究

CMCがもたらす自己表現とそのデザインの探求

内容

対面では認識できない病や精神疾患などを患う人々は、多様な「語りづらさ」を抱えている。本研究は、10代～30代の若年層の乳がん患者を対象に、彼らが自ら語り出す（表現する）ことにより、その生きづらさやストレスが軽減されるだけでなく、セルフトラнセンデンス（喪失や困難な人生経験に直面した際に獲得される生きる意味や目的を見出す能力のひとつ）が促進されることを検証しようとするものです。



下田 麻里子

早稲田大学 文学研究科

受賞の言葉

本気で研究を続けていきたいのなら今しかない、と3人目を出産したところで博士課程を開始したものの、目指す研究者像とは程遠い自身の現状に焦りを感じてしまうことも。今回の受賞は、研究者として、母として自分らしいペースで一歩ずつ進めばよいのだという応援と、今後の研究に進進する力をいただきました。

研究テーマ

カンボジア ポスト・アンコール期王都の 都市構造に関する考古学的研究

内容

本研究は、支配者の構想や社会体制が顕著に表れる都市構造の解明を通じて、カンボジア史において歴史資料が欠落し歴史的断絶が問題視されてきた14世紀～16世紀前半に起こった、カンボジアの領域、王権、社会、経済、そして宗教における大きな変化について解明しようという試みである。都市構造の解明を通じて当該時期の国家構造を理解し、中近世史の歴史認識を改めることで、東南アジア近現代史の再解釈へとつなげたい。



スミセイ女性研究者奨励賞



土屋 裕子

立教大学 法学部 兼任講師

受賞の言葉

次女の出産に伴いポストを失い、研究を仕事とは理解されず周囲からの協力が得にくい状況の中、研究と育児の両立を何度も諦めかけました。本受賞はそんな私に大きな励みと希望を与えてくださり、心より感謝申し上げます。研究成果を社会に還元するとともに、娘たちに輝きながら研究を続ける母の姿を見せたいと思っています。

研究テーマ

医療・介護分野における AI関連技術の開発および利用に関する 法的・倫理的課題の検討

内容

世界的に人工知能(AI)に関する研究や応用が進み、医療や介護の現場もその例外ではない。超高齢化社会を背景に、医療・介護分野におけるAI関連技術の利活用は国策として進められている。本研究は、超高齢化社会における医療・介護とAI技術とのあるべき関わりの方向性を見出すとともに、それに伴う法的・倫理的課題を検討し、医療・介護分野におけるAI関連技術の利活用の推進と、それによるQOLの高い超高齢化社会の実現の一助としたい。



寺澤 優

立命館大学 衣笠総合研究機構

受賞の言葉

このたびは荣誉ある賞をいただき、本当にありがとうございます。研究を続けながらの育児は本当に大変で、時に心が砕け散ってしまいます。子どもとの時間を犠牲にして研究を続ける意味があるのか、と葛藤を抱えながらも今まで積み上げたものを投げ出すこともできなかった私にとって、大きな後ろ盾を得ることができました。

研究テーマ

戦前日本の性産業における人身売買問題 ——芸娼妓酌婦の 「身売り」と紹介業の実態を中心に——

内容

本研究は近代日本の性産業において、問題の根幹とされてきた女性や児童の人身売買に焦点をあて、その実像や制度から問題構造を解明しようとするものである。職業紹介制度と公娼制度の「ねじれ」によって発生した人身売買の弊害がなぜ改善されず、その後も残り続け、公娼や私娼をはじめとする女性の人権を蹂躪し続けることになってしまったのか。かかる状況が近代日本の性産業をいかに性格づけ、複雑化したのかを考察したい。



中村 恵理

慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科
独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

受賞の言葉

このたびは奨励賞の対象者として選んでいただき感謝いたします。第一子を抱えながら大学院に通っていた頃、育児をしつつ研究に必要な時間を確保するのは容易ではないと実感しましたが、第二子が誕生した今、さらにそのことを痛感しています。ご支援を通じて、研究と育児を両立するための選択肢が広がり、ありがたい気持ちで一杯です。

研究テーマ

ウガンダの難民の自立に関して 民間セクターの果たす役割について

内容

国際社会は、難民を「保護」の対象ではなく、「自立した存在」や「経済への貢献者」となるよう支援を転換し、そこで民間セクターが果たせる役割に注目しているものの、同分野に関する研究は未だ限定的である。本研究では、難民関連ビジネス(難民が所有者・経営者・労働者として参画するビジネス、及び、難民を顧客としてサービスを提供するビジネス)が成り立つために必要となる環境について、ウガンダの事例をもとに検討を行う。



望月 美希

独立行政法人 日本学術振興会 特別研究員PD

受賞の言葉

このたびは栄えある賞をいただき、心より感謝申し上げます。ポストドクター中の出産後、研究と子育ての両立の難しさ、今後のキャリア形成の不安を抱えておりましたが、今回の受賞により、自らの思う道を進んでよいのだと勇気をいただきました。夏には第二子が誕生しますが、母として、研究者としてより一層頑張りたいと思います。

研究テーマ

福島第一原発事故被災者の 生活課題と支援

「保養キャンプ」の事例を通じて

内容

福島第一原発事故後、低線量被ばくによる健康被害や社会関係の再構築に不安を抱え生活する親子を支援する活動として、「保養キャンプ」という取り組みが展開されてきた。本研究は、原発事故被災者が抱える生活課題、それに対する支援実践とその課題を明らかにし、市民によるリスク管理と被災者ケアの在り方を考察する。また、チェルノブイリ原発事故後の保養キャンプと比較検討を行い、両国の政策的対応についても明らかにする。